

自衛官であった時にも、長時間に亘り人の話、それも進んで聞きたいのではなく半ば義務的に聞くのは苦痛であったが、階級が上になるほどその傾向が強くなり、最近では全く我慢が出来なくなってきた。

入社して、新入の女子社員、それも今春卒業したばかりの若い娘に混じって生命保険の基本的事項に関する教育と一緒に受講し、然る後一般課程の試験を受けることとなった。義務という訳ではないが、保険会社において保険の基本も知らないようでは可笑しいということで先輩の強い勧めもあり斯くなった次第である。

テキストと模擬試験問題を貰い眺めてみたが、業界用語に特殊なものがあるが、それを除けば極めて常識的なことばかりではないか。運転免許の試験みたいなものだ。一寸勉強すれば満点間違い等と、記憶力が低下している事も、試験という特殊な雰囲気のも事も遙か彼方に置き忘れてきた事も棚に上げて自惚れた次第である。

トータル10時間位は彼女等と一緒に講義を受けたらどうか。この年になると経験が役に立つか理解力は増しているのだろう。一般的なことや税や相続等に関する事は全く問題なく頭に入る(?)と本人はその時は思っていた。生命保険についての用語もそれ程難しいものではない。が、覚えているかどうか不安である。

模擬試験問題をやって見た。生命保険協会の統一試験用の模擬試験である。80点以上は簡単に取れる。が、私が勤める生保会社は90点を最低合格ラインとしている。後数点足りぬ。採点してみると、同じところを何回も間違ふ。どうも正確に記憶していないようだ。それで、間違い易い所を覚えようとするのだが、これが難題だ。問題形式は択一式、正誤式、計算問題であるが、計算問題を除き、回答に迷うものが多々ある。所謂引っ掛け問題だ。

それでも何回か模擬試験問題をやっている内に満点を取れるようになった。選抜試験ではなく資格試験だから、模擬試験問題以外から出題する事はあるまいと高を括って試験直前はそこだけ重点的に覚えて試験会場に向かった。

会場への所要時間がどうも良く解らない。早過ぎたようだが、待つ内に人が集まり始めた。受付が一番早かったのだろう。200人入ろうかと言う大会場の最前列最左翼に席を指定された。まもなく試験開始である。顔ぶれを見ようと会場を見回して、矢張りと感じ入った。当社のみではなく他社からも受験に来ているが、ついこの間卒業したばかりの学生の雰囲気の抜けぬ娘さんばかりである。どうやら男性は小生のみようだ。昔の娘さんと思しき女性がちらほらだ。

試験開始、見た事のある問題が多いので非常に順調だ。が、中に教程にはあったが、模擬試験問題になかった問題が出ている。「ウヌ」と思いつつも何とか回答していく。計算問題は完璧だと思ってマークシートを見て吃驚。塗りつぶすべき回答場所を間違っている。冷や汗をかき慌てて書き直す。見直しも終わり、残り10数分ある。『よし、此処で格好良く退出しよう。』出口で若い女性に揉みくちやにされるのは怖いからと勝手な理屈をつけて。

会社に帰って、確認したら、模擬試験問題に無い箇所であろう覚えのところが矢張り間違っていた。満点を逸して残念也。

お受験も楽ではないというのを実感した次第。次ぎはFPに挑戦しようかな。

